

《一》次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(字数制限のある問題は、句読点も一字に数えます。)

ピポッ、ピポッ、プーッという電子音とともに、クーンと少し高い音を立てながら、それは動き出した。壁や椅子、テーブルの脚などにぶつかり、ぶつかり、その進行方向を小刻みに変えていく。コッソコッソと部屋の隙間にその身体を小さくぶつけつつも、ふと何を思っただけか、方向転換をして部屋の反対側に移動してみたりする。その気ままな動きに目を奪われ、しばらくその様子を追いかけてしまう。

ロボットとの共生というのは、いつのことになるだろう。文字通り「共に生きる」ことなのだから、ロボットが生きていないことには始まらない。そんな時代は、しばらくは来ないだろうと高を括っていたところがある。しかし、どうだろう。この目の前で動く健気なお掃除ロボット(ヘルンバ)にちよつとした「Aしてやられた感」を覚えるのだ。

その気ままなお掃除ぶりは決して効率的なものとはいえない。同じところを行ったり来たりと重複も多い。たぶん、取りこぼしているところもあるに違いない。それでも許してしまうのは、その健気さゆえのことだろう。小一時間ほど走り回ったあと、ちよつと疲れたようにして自分の充電基地へと舞い戻っていく。少し速度を落としての、小さく腰を振る所作がかわいい。そこに集められたホコリや塵の量をみて、B思わずC労いの言葉を掛けそうになるのだ。

このロボットとの同居を始めてみると、ケール類を巻き込んでギブアップしないように、椅子と壁との袋小路に入り込むことのないようにと、いろいろと気を使う。これもロボットのためなのだ。「あれ？ Cこれでは主客転倒ということになってしまうのでは……」と思いつつも、これはこれで許せてしまう。

それと興味深いのは、結果として「部屋はともきれいになっている」ということだ。わたし一人で部屋を片付けたわけではない。あるいはお掃除ロボットの一方的な働きだけでもない。「一緒に！部屋をきれいにした」ということだろう。

このお掃除ロボットがもつと完璧に仕事をこなすものであったなら、もう少し状況は違ったものとなるはずだ。「もつと静かにできないの？」「もつと早く終わらないの？」「この取りこぼしはどのようなの？」と、その働きに対しての要求水準をエスカレートさせてしまうことだろう。しかし、あれもこれもと機能を抱え込むにも限界はある。

「Dお掃除してくれるロボット⇕それを使うひと」と、その役割の間に線を引いた途端に、相手に対する要求水準を上げてしまう。こうした図式は、モノとの関わりに限らず、いま、至るところに生じているように思う。おばあちゃんの世話をするという何気ない関わりが「職業」となった途端に、その役割に対する要求水準を上げてしまう。その結果、「介護するひと」と「介護されるひと」との間に垣根が生まれてしまう。あるいは、至れり尽くせりの講義を準備すればするほど、「教師」に対して「もつと大きな声で、もつと手際よく！」と「学生」からの要求はエスカレートしてしまうのだ。

Dそうした場面に遭遇するたびに、先のお掃除ロボットの気ままさや自分の「弱さ」に対してのあつけられかんとした姿もいいなあと思う。老練な教師ならばすでに心得ているように、「この説明じゃ、だれも理解できんだろうなあ」という講義も何回かに一度は許されてもいい。時には「えっ、なにこれ？ ちよつとわからない。どうしよう……」という学生たちの緊張感も必要なのだ。あるいは、「大丈夫かなあ、この先生は……」とちよつとした「Eハラハラした感じを引き出すような講義はどうか。少し緊迫した関係性がむしろ豊かな学びを生み出しているように思う。

こうした感覚は、これまでの利便性一辺倒なモノや他との関わりとは少し違う。効率性やわかり易さではないにか。むしろ「不便さ」や「弱さ」、「わかり難さ」の復権とでも呼べるようなもの。それは「モノ」や「対象」に対して一方的に価値を求めるのではなく、むしろ F他との関わりから生まれる「コト」の中に豊かな価値を見出そうとする流れなのかもしれない。

問一 傍線部 A 「『してやられた感』を覚える」のはなぜですか。七十字以内で説明しなさい。

問二 傍線部 B 「思わず労いの言葉を掛けそうになる」のはなぜですか。六十字以内で説明しなさい。

問三 傍線部 C 「これでは主客転倒ということになってしまふ」とはどういうことについてそう言っているのですか。五十字以内で説明しなさい。

問四 傍線部 D 「そうした場面」とはどういう場面ですか。分かりやすく説明しなさい。

問五 傍線部 E 「ハラハラした感じを引き出すような講義」とありますが、お掃除ロボットでいうとどのような様子が「ハラハラした感じ」を引き出すのですか。百字以内で説明しなさい。

問六 傍線部 F について、ここでの「他との関わり」とはどのような関わりですか。これまでの「他との関わり」との違いが分かるように、八十字以内で説明しなさい。

〈五十点〉

《二》次の I・II の問いに答えなさい。

I 次の①～⑮の傍線部のカタカナの語を漢字に改めなさい。

- ① 日本列島をジュウダンする。
- ② モゾウ品が出回る。
- ③ 劇をカンランする。
- ④ 独自の理論をコウチクした。
- ⑤ 野球部センゾクのコーチ。
- ⑥ フウヒョウ被害に悩まされる。
- ⑦ 事業の成功に向けてあれこれとカクサクする。
- ⑧ この寺院のエンカクははつきりとは分かっていない。
- ⑨ 卒業式でシャジを述べる。
- ⑩ マッセキをけがす。
- ⑪ サイクは流々。
- ⑫ スジガネ入り。
- ⑬ ステンツ人を刺す。
- ⑭ チクバの友。
- ⑮ キキユウ存亡の秋。

II 次の文章の傍線部①～⑤のカタカナの語を漢字に改めなさい。

二〇一四年十二月、その年の世相を表す「今年の漢字」第一位として「税」が選ばれた。①ショウヒ税率が引き上げられるなど、「税」に関わる問題が政財界で多くとり上げられた年だったといえる。二位は「熱」。冬季五輪などの世界的スポーツイベントで、数多くの熱戦や②エンギに、多くの人が「熱」になったからだろう。

清水寺には過去二十年分の「今年の漢字」が③イチドウに④テンジされているので、これを見るのも興味深い。ちなみに二〇一三年の漢字は「輪」。二〇二〇年の東京五輪開催や、富士山の世界文化⑤イサン登録が決まるなど、日本中が「輪」になって喜びにわいた年だから、というのがその理由であった。

〈二十点〉

《三》次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(字数制限のある問題は、句読点も一字に数えます。)

第二次世界大戦後の世界では、「冷戦」と呼ばれる、アメリカを中心とする「西側」の国々と、ソ連を中心とする「東側」の国々との激しい対立が続いていた。ドイツは東西に分けられ、ベルリンには行き来を制限する「壁」が設置された。この「冷戦」時代の終わりを、「私」はドイツで過ごしていた。

私は、一九八〇年代のドイツで子供時代を過ごした。

当時私が家族と一緒に住んでいたのはキールという港町。キール市はドイツの最北エリアにある州の州都だが、人口はたった二四万人で、決して大きな町ではない。また、キールには昔から軍港があるため、第二次世界大戦中に町が空襲に遭い、昔ながらの美しい装飾の付いた家がほとんど残っておらず、他のドイツの町と比べるとかなり劣って見える。

それでも子供の私にとって、キール以外の町に住むなんて考えられなかったし、そもそも行動範囲が狭かったので、このままの暮らしが永遠に続くのだろうと思っていた。いや、そもそもそこまで考えてもいなかったろう。ドイツにも強い影響を与えた<sup>\*1</sup>チエルノブイリ事故が起きたのは二歳の頃だったので、牛乳が飲めなくなったことも、雨に濡れてはいけなかったことも、外で遊べなかったことも、何一つ覚えていない。

①私の世界が変わる最初のきっかけは小学校の入学式だった。ドキドキしながら待ちに待った一九八九年のある八月の日、六歳になったばかりの私はおしゃれなワンピースを着せてもらい、真新しい紫色のランドセルを背負って、自分の身長の上半分もある「<sup>\*2</sup>学校袋」をまるでトロフィーのように両手で抱えながら、両親とともに学校へ向かった。

小学校の小さな校舎の前には、同じように着飾った親子が式の始まりを待っていた。しかしよく見てみると、新入生の中には他の子供より背が高くほっそりした、青白い肌で、髪の毛がカールした男の子が二人いた。笑顔ではなかった。彼らが着ていた暗色の服装が妙にクラシカルな雰囲気で、周りの生徒の間でかなり目立っていた。少し近づいてみると、話している言葉がドイツ語ではないのがわかった。「どこの子供なんだろう？」とかなり気になった。

しかし次の日に学校に来てみても、この点に関して全く説明がなかった。彼らが兄弟であること、普通の一年生よりも年上であること、ドイツ語があまり話せないこと、何らかの事情でキール郊外に住むようになったことだけは伝え聞いたが、それ以外は一切不明だった。いつもトレーナーの上下を着ている物静かな二人は気になる存在だったが、時間が過ぎていくうち、いつの間にか謎は謎のまま日常に埋没していった。

ドイツの学校では雨の日以外、授業の間の休み時間を必ず外で過ごさないといけないルールがある。大きな砂場のような校庭でクラスメイト全員で遊ぶのだ。雨上がりの湿った土に「運河」を掘ったり、自分たちで考えたルールで鬼ごっこをしたりする。言葉なんて要らなかった。

しかしある日、担任の先生が何かの口実を使い、この休み時間に例の二人の男の子に校長のお手伝いをさせた。二人が教室を出た後、先生がこう話した。「昨日、家庭訪問で二人の家に行ってきました。あの二人は、浜の近くにある非常に狭い小屋に住んでいます。部屋の大きさは六平方メートルしかなく、家族五人で暮らしています。狭い部屋の中には三段ベッドが二つも置いてあるので、家の中ではちゃんと立つことすらできません。二人はモノもあまり持っていないけど、そんなことを気にしないで、優しく接してあげてくださいね。」

②先生の話は衝撃的だった。話を聞いているうちに、二人の同級生の五人家族が肩を寄せ合いながらひっそりと暮らしている小屋の<sup>\*3</sup>ヴィジョンが、鮮明に目の前に浮かび上がった。

「ウチの近くで、こんな生活を強いられている人たちが住んでいるなんて！」信じられなかった。その時の私の内面では、担任の先生がいつも生徒に聞かせていた子供時代の戦争体験の話、とりわけ空襲の時に感じた不安の話が二人の同級生の現状イメージと重なったのだ。これは、「歴史」についての間接体験と身近な「現実世界」の直接体験がつながった瞬間で、③私の現実認識はわずかながら、しかし決定的に変化した。

今まで当たり前のように<sup>\*4</sup>享受していた安全性と安定感が揺れ動き、子供ながら自分の生活の「脆さ」というものを初めて実感した。そして何より強く感じたのは、世界は広くて知らないものだらけだが、自分と完全に無関係なものはないらしいということだ。

一九八九年十一月九日、ベルリンの西側と東側を分けていた「壁」の検問所が開放された。その日までTVニュースには毎晩「<sup>\*5</sup>DDR」や「壁」や「避難」という言葉がよく登場していたが、そもそもの意味はさっぱりわからなかった。覚えているのは、柵の向こう側に立っているたくさんの人々の青白い顔と寂しそうな表情。彼らが柵の内側、つまり、テレビカメラと私たち視聴者がいる側に行けたら自由になれるのに、それを暴力的に妨げようとする者がいること、柵を突破する途中で見つかる引きずりおろされ逮捕されるが、無事こちら側までたどりついた人々は祝福されて明るい未来に向かうらしい、という法則性

は子供ながらに認識していた。

私の「冷戦時代」についての直接認識はそんな感じだ。いま思うに青白い顔の人々は、<sup>\*6</sup> プラハにある西ドイツ大使館の敷地内に入って亡命を図った旧東ドイツ国民だったのだろう。

壁崩壊の直後、二人の同級生は学校に來なくなつた。そして、この件についても説明は一切なかった。<sup>④</sup> この二つの出来事が直接つながっている証拠は無いが、無関係とは思えなかった。

そう、これも先の話と同様、テレビを通じて知つた「外部世界の人々」についての間接体験と身近な直接体験の<sup>\*7</sup> シンクロだ。私はこれ以降、ものごとの背後にある関係性の<sup>\*8</sup> 実相に、次第に強い関心を抱くようになっていった。

これは、冷戦と壁崩壊が<sup>⑤</sup> 幼い私の内面にもたらした「変化」である。

(マライ・メントライン「世界が変わつた日」より)

<sup>\*1</sup> チェルノブイリ事故：一九八六年にウクライナ(当時はソ連の一部)のチェルノブイリ原子力発電所で起きた事故。

<sup>\*2</sup> 学校袋：お菓子や小さなプレゼントの入つた、アイスクリームコーンの形をした巨大な袋のこと。ドイツでは小学校入学式で必ず親からもらう。

<sup>\*3</sup> ヴィジョン：映像。

<sup>\*4</sup> 享受：じゅうぶんに味わい、楽しむこと。

<sup>\*5</sup> DDR：ドイツ民主共和国(東ドイツ)の略称。

<sup>\*6</sup> プラハ：チェコスロヴァキア(現チェコ共和国と現スロヴァキア共和国)の首都。

<sup>\*7</sup> シンクロ：同調。一致。

<sup>\*8</sup> 実相：本当のすがた。

問一 傍線部①「私の世界が変わる最初のきっかけ」とありますが、「きっかけ」となつた出来事とはどのようなことだったのですか。四十字以内で説明しなさい。

問二 傍線部②「先生の話は衝撃的だった」とありますが、どのようなことに衝撃を受けたのですか。次のイ、ホの中から最も適切なものを選び、符号を書きなさい。

イ 自分の生活の身近に、貧しく不自由な生活を強いられている人たちがいたこと。

ロ 二人の同級生の五人家族が暮らしている小屋のヴィジョンが鮮明に浮かび上がったこと。

ハ 担任の先生の空襲の時に感じた不安の話により、自分の抱えている不安がかき立てられたこと。

ニ 担任の先生の戦争体験の話と二人の同級生の現状イメージとが重なつたこと。

ホ 「歴史」についての間接体験と身近な「現実世界」の直接体験がつながつたこと。

問三 傍線部③「私の現実認識はわずかながら、しかし決定的に変化した」とありますが、「変化」する前の「現実認識」とはどのような認識だったのですか。六十字以内で説明しなさい。

問四 傍線部④「この二つの出来事」とは何を指していますか、答えなさい。

問五 傍線部⑤「幼い私の内面にもたらした『変化』」とありますが、「私」の「内面」はどのようなことだったのですか。五十字以上六十字以内で分かりやすく説明しなさい。

[illegible][illegible]